

議会運営委員会 会議録（要旨）

○ 開催年月日 令和3年7月20日（火）

午後3時00分 開会

午後3時56分 閉会

○ 場 所 第3常任委員会室

○ 出席委員（10名）

委員長	伊波一男
委員	山城康弘
委員	米須清正
委員	呉屋 等
委員	岸本一徳

副委員長	濱元朝晴
委員	知念秀明
委員	知名康司
委員	桃原 朗
委員	桃原 功

議長	上地安之
----	------

○ 欠席委員（0名）

○ 委員外議員（0名）

○ 説明員（2名）

副市長	和田敬悟
-----	------

基地渉外課長	吉村 純
--------	------

○ 議会事務局職員出席者（4名）

局長	東川上 芳光
議事係長	平田 駒子

課長	仲村 厚子
担当主査	大城 拓也

○ 協議案件

1. 普天間飛行場内におけるPFOSを含む汚水処理について

議会運営委員会（要旨）

令和3年7月20日（火）

○伊波一男 委員長 ただいまから議会運営委員会を開会いたします。

（開会時刻 午後3時00分）

【協議事項】

普天間飛行場内におけるPFOSを含む汚水処理について

○伊波一男 委員長 前回の議会運営委員会にて、決定したとおり、本日は副市長より本件における今後の市の対応について伺ってまいりたい。副市長においては業務多忙の中御出席下さり感謝申し上げます。

○副市長 前回の議会運営委員会で基地渉外課長より説明があったと思うが、改めて説明いたしたい。7月13日火曜日に普天間飛行場の中に立ち入り、PETSシステムという、PFOSの排水処理システムの説明会に、急遽、防衛の方から宜野湾市も立ち会っていただきたいと連絡があり、立ち入って参った。

その日は、終始格納庫の施設の中に入り、CH53ヘリがエンジン調整をする中、音が通りにくく、暑い環境の中で説明を受けた。

手元に配布した資料のとおり、トラックの荷台に装置がついており、排水はブルーのタンクを通してあらあらの不純物を除去した後、もう一つ先にある8つの黒いタンクを水が通りながら過するシステムだという説明を受けた。これは、希釈水で薄めて流すのではなく、プラスの電圧をかけた浸透膜を通しながらPFOSが持つマイナスイオンを付着させ除去していく。最終的には、その浸透膜はサイズが小さくなり、専門の委託業者に処分してもらうという説明を受けてきた。

質疑応答の時間に、最初に私より質問したが、去年の泡消火剤の事故を受け市民が環境に対し非常に懸念を抱いており、PFASそのものを非常に怖い物質だと捉えている。市の希望としては、3年前まで焼却処分されていたとのことであるので、従来どおりの方法で処分していただきたいと強く要望し、この要望は通るか質問した。これに対し、G7政務外交部のオーウェンズ大佐から、米軍としてはあらゆる手段でPFOS、PFASを含む汚水の処理について検討しているところであるが、かなり多量に出てくる可能性があり、従来の方法だと日本国内で処理するのだが、施設の能力に限界があると考えている。併せて、財政的に負担が大きい。そこで、PETSステ

ムで処理すると、飲み水に対する環境基準値、50 ナノグラム・パー・リットルをはるかに下回る濃度まで、除去できることが米本国は実証され、かなり稼働しているらしく、これで下水道に流したいという話をされた。

当日、現場には、環境省、外務省沖縄事務所、沖縄防衛局の環境政策室と企画部の部長他何名か出席していた。また、県からも10名、基地対策課長、環境対策課、下水道課の職員も参加していたが、異口同音に下水道に直接流してはまずいという話をされていた。

同日、市長が上京しており、翌14日に官邸に入り総理、官房長官、泉総理補佐官、杉田官房副長官にお会いした。市からは、安藤理事と秘書課長が同行した。実際事務的な話のため杉田副長官の方へ行った際に、副長官の方から、科学的に立証されなければ下水道には流すのは難しいですよ。という話があったとのことである。市長としても、そうですね。科学的立証があって初めて議論ができますよね。流す、流さないはそれからの話ですよ。という話をした。新聞報道ではその真ん中だけ抜かれ、**さも**市長が容認したような発言で報道されたが、実際のところはそうではない。ぶら下がり記者会見の際も、そのとおりに発言したのに、なぜそういう記事になったのか。市長は首をひねっていた。

私も現場で、国、県、米軍の前ではっきり宜野湾市としては従来どおりの焼却処分をしていただきたいと、これは科学的にどうのこうのということではなく、市民が怖がっており市民の感情的なものがありぜひ従来どおりの方法で処分していただきたいという話をした。また、配布資料に、現場での大きな風船の写真があるが、そのタンク中に、PETSシステムで処理した後の水が貯蔵されているとのことである。容量までは分からない。基地政策部長と上下水道局次長が、サンプリングに立ち会ったがその写真も資料にある。白いバケツにスポイトのような長い管で、上層、中層、低層の3カ所の水を採りバケツに入れる、同じようにして、防衛局、米軍、沖縄県に2本ずつ採って渡し、再度、2回目のサンプリングをした水を4リットル県へ提供。3回目のサンプリングは10リットルを採り、防衛局へ渡したとのことである。それぞれ最終的な分析結果が出れば公表することとなっている。軍は、日本の目標基準値をはるかに下回っている水だと自信を持って話をしていた。

結果が出るのが、県はPFOSのみで2週間。国は44項目の分析で約2～3か月かかるとの話があった。米軍のサンプリングは本国で行い、やはり2～3か月かかるとのことで、その間タンクはそのまま保管され、分析結果が出た後、国で方針を決め、市と県を含め議論していこうということになるはずである。国の動きとしては、環境省が中心となり、排水や土壌の濃度の目標値を設定することを議論しているとのこと

である。分析結果が出て、初めて議論ができるという状況である。今日までの流れの概略はこのとおりである。

沖縄県は、基地対策課長がテレビで、下水道施設への流す、流さないの判断は法律的に規制ができない。県としてもやはり焼却処分してほしいという話はしていた。どうするかは、科学的に立証された後に正式に議論のテーブルにのせることになっている。米軍が懸念事項として声を大にして言っていたのが、場所の特定はしてもらえなかったが、格納庫の側の地下に埋まっている7万6,000リットルから17万リットルまでの大きさのタンク6つに、今汚水があるということ。総量は、質問したが、地下に埋まっているタンクのため把握できていないとのことであった。当日の米軍の配布資料によると処理前の濃度が300~650ナノグラムで、タンクごとに濃度が違うと読み取れる。処理水については、分析結果を県、国、米軍とも必ず宜野湾市へ情報提供することであったのでそれを見てから検討していきたい。あとは質疑に答えてまいりたい。

○伊波一男 委員長 質疑があれば挙手にてお願いしたい。

○桃原功 委員 前回の議会運営委員会で基地渉外課長から焼却処分を求めていくとの再確認はできているが、改めて市の方針としては焼却処分を求めると理解してよいか。

○副市長 現段階ではそのとおりである。

○桃原功 委員 米軍と日本政府がつくった「JEGS（日本環境管理基準）」では、処分方法等について、厳しい方を採用することになっているが、焼却処分をする根拠を伺いたい。

○副市長 P F O S 含有廃棄物の処理に関する技術的留意事項というのが環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部から平成23年3月に出されている。細かく読み取ってはいないが、それによると焼却処分と書かれているようである。米国は今、二酸化炭素排出量削減の話があり、燃焼させないこのPETシステムが主流となっているという説明があった。

○桃原功 委員 環境省の示す処分方法が一番合理的で適正であるという認識で焼却処分方法を主張したということか。

○副市長 私どもが認知している処分方法は焼却処分しか聞いておらず、いきなり下水道へ流すと言われても、市民の感情的なものもあるので従来どおりの方法を求めたところである。

○桃原功 委員 今日配布していただいた資料に仮訳として、「処理後、処理水のP F A S濃度は水環境及び飲料水中に50pptという環境省の目標値を下回ります」と書いてある。本日のタイムスの記事では、「環境省や厚生労働省のP F O SとP F O Aを合わ

せた暫定指針値・目標値（1リットル当たり50ナノグラム）を下回ったとされる水500ミリリットルを米軍から提供された」と記載されている。これだけを見ると、もうすでに処理され50ナノグラムを下回った水を渡されたと解釈する。このそごについて説明いただけるか。

○副市長 これは記者の捉え方と思うが、私が聞いた説明はあくまで、タンクに残っている処理前の水、これは見たわけではないが、それは、300～650ナノグラム・パー・リットルの濃度があった。それをPETSシステムで浄化し、その水がタンクの中に入っている。その浄化した水をサンプリングして採ったとの説明である。それを今、分析にかけている。これは、今、50ナノグラム以上か、以下かどうかの分析結果は出ていない。この結果が出てから、出来るのであれば環境省の基準等も斟酌しながらこれから、議論していきましょう、ということである。

よって、50ナノグラム・パー・リットルの以下の水をもらったのではなく、あくまでPETSシステムで浄化した水をサンプリングした。これから分析に出しているという内容である。

○桃原功 委員 今、副市長は、サンプリングした3回目の水10リッターは、防衛省に渡されたと言っていたが、環境省は持って行かないのか。国の調査どころは、どこか。

○副市長 基地からのものということで、防衛省のほうで所管をして分析すると思われる。環境省は基準をつくっているという立場である。今回、環境省ではなく防衛局がサンプリングを受け取った。

○桃原功 委員 すでに台風6号が接近中だが、前回の議運でも台風による汚染水漏出を懸念する声があった。米軍と国の分析結果は2～3か月後ということだが、それまで、台風が来ようが6つの貯水槽の水は処分しないということは、強く申し入れされているか。

○副市長 現状を維持するという話をされていた。ただ、施設は老朽化しており、大雨の時に雨水が入り込む可能性があり、そこは対策を取るが、防ぎようのない事実であり、タンクには水が入っている。だから、早めに結論を出し処理したいというのが米軍の意向である。

○桃原功 委員 格納庫に米軍機が入り、PFASを含む泡消火剤で訓練をし、薄まった水がその隣の貯水槽に溜まる。訓練の頻度等にもより6つの貯水槽の濃度は異なると考える。6つ全ての汚水をサンプリングしたのか。1年前の漏出事故にしてもPFASの泡を止めきれず、川に漏出し港まで行ってしまった。PFASが含まれていない泡消火剤に早く替えるとか、格納庫から出てくるPFOSの対策をしなければいけない。それをせず、米軍はこのような話を出してきている。6つの貯水槽のサンプリ

ングはされたのか。

○副市長 その明確な説明はなかったが、資料によると 300～650 ナノグラム・パー・リットルの範囲で汚染水があったという事実が記載されていた。また、この前の事故の際に泡消火剤が出てしまったが、それ以外は3年間一切、訓練では使っていないという話であった。別の会議では、今、PFOSを含む泡消火剤は順次入れ替えているということであった。どこまで交換したのかは我々には教えてもらってはいない。

○桃原功 委員 そこである。事実を隠蔽するという体質はあると認識している。6つ貯水槽の薄まった水をサンプリングし、これは50ナノグラム以下だから安心してと言われても、信用しかねる。本当に濃い部分のサンプリングはどうかと疑問が出てくる。

○副市長 PFOSを含む泡消火剤は2016年から使われていないということである。

○知念秀明 委員 今回のサンプリングは排水処理システムにて処理済の水を国と県が調査のために持って行ったという認識で良いか。

○副市長 そのとおりである。PETSシステムで処理した後の水を大きな灰色のタンクに溜めておりその水をサンプリングして、分析にかけている。

○知念秀明 委員 副市長から科学的立証や根拠に基づき話し合いを進めていくということがあったが、市として、焼却処分を求めることとの整合性はどうか。

○副市長 冒頭述べたように、上下水道局の見解でも飲み水以下に下がった物質を流す場合、法的に止められる根拠はないが、それにしても我々としては市民感情があるので、従来通りの方法で処理していただきたい、また、科学的に立証され、安全であるという事が出た後テーブルにのせて議論して行こうという話をさせていただいた。

○知念秀明 委員 現在の状況は絶対に焼却処分だという意向には変わらないか。

○副市長 現段階ではそのとおりである。

○岸本一徳 委員 基地内にPFOSを含む泡消火剤があるかどうか把握しているか。代替品に替え、今はないとの情報も米軍からあったように聞いたが、実際に普天間飛行場から流出した。また、環境基準値も去年決まり、以前はPFOSそのものが米軍基地からなのか分からないと言っていた時期があったが、そこは県も市も、環境汚染、土壌汚染も米軍基地から発生していると、確認をしているのか。

○副市長 その件は、まだ確証は得ていない。県も同じ意見でまだ蓋然性の域を出ないということである。例えば、フィルムの現像液は100%の濃度のPFOSであり、そのパレット1つを川に流してしまうと1,000～2,000の濃度として出てくる。またPFOSが防腐防塵材として使われているカーペットを川に投げて入れてしまうとPFOSが流れ出てしまう事実はある。そのため、必ず米軍が原因だとは言いきれない。

いというところである。米軍は泡消火剤にPFOSが含まれていることは認めている。2016年までの訓練では使っていたが、今は使っていないということをはっきり言っている。なぜタンクにしみ出てくるのかという質問に対し、コンクリートにしみ込んでいる部分がかかなりあり、老朽管のさびの部分にPFOSが付着している部分があるのではないかと、それが清掃する時に少しずつ漏れてしみ出してきてタンクに溜まってきているのではないかと、という話はあった。

○岸本一徳 委員 この辺が、環境省なり防衛省がちゃんとやらないといけないことであり、PFOSを含む泡消火剤そのものがまだ置かれているのかどうか明らかにして行くべきである。民間で使っているのもあるという話だが、それがどのくらいの量で、環境汚染しているのかということは調査してみないと分からないことであり、大多数は米軍基地から発生したものだと、はっきりさせる必要がある。特に、大山の取水している所が一番汚染されているということからすれば、本当はもっと根本的に、立入調査を求めて行かなければいけないと考えるがいかがか。

○副市長 この件について沖縄県知事と宜野湾市長で国に対し、立入調査の申入れはしている。防衛本省からも横田基地在日米軍司令部のほうへ立入調査のことを合同会議の中で話してくれと申入れしているという情報も入っている。3～4回同じような要請を出しており、最後に出したのは市長と連名で出している。我々が知事に対し一緒に立入調査をさせてくれという要請を出し、それを受け、知事が連名で文書として出している。

○岸本一徳 委員 今回の下水道への放出計画からこのような問題になっているが、実際に今も流れ続けているかどうか調査は年に2回、県が行っているのか。例えばチューンナーガーなどをサンプリングした結果、市の実態はどうか。

○副市長 沖縄県の環境対策課で年に2回サンプリング調査をしている。都度半年ほど経過して市の方に報告がある。

○岸本一徳 委員 県はどのような分析をしているのか。

○副市長 記憶の範囲だが下がったり上がったり年によって違うが、平均して一定程度の量は出てきている。ただ米軍から直接来ている水なら米軍だと言えるが民間地の下を通ってくる水であるため、なかなか特定には至っていないというのが現状である。

○岸本一徳 委員 今回の汚水処理は、市民感情的にも焼却処分を求めているとのことであったが、以前、真志喜の公園でPFASが検出された際に市が焼却処分した時の量や費用から推し量り、処理費用の想定はできるか。又、これは米軍の予算で行うべきと認識してよいのか。

○副市長 米軍の予算で行うと予想はしているが、総量が分からないため計算できない。

○岸本一徳委員 市が焼却処分した際は相当高くついたのでか。

○副市長 500万円から600万円と聞いているが、専門の仲介業者に委託し、確か本土に持って行って焼却処分したと聞いている。

○山城康弘 委員 先ほどの桃原功委員の質疑への答弁で、約2～3か月後に検査結果が出る、ただし、設備の老朽化があり、雨水等が流れ込み漏出する可能性があるとのことであるが、格納庫地下タンクの容量に空きがあり処理前の水は流れ出ないと理解してよいのか。

○副市長 私もそのように、まだまだ余裕はあるのだらうと理解している。

○山城康弘 委員 先ほど米軍は分析に2～3か月かかるということであったが、県もそうか。なぜこんなに時間がかかるか疑問である。米軍が今のタイミングで放出をしたいというのはキャパ的な心配があるからと考える。米軍の結果が出る前に、動かせるのは県や国ではないか。早めに検査結果を出して進めなければ、3か月だと今から多数の台風が接近する。もし、想像できないぐらいの降雨量の台風が来た場合にどうするかという懸念がある。今回議論するのはここが最大のポイントだと考える。市からも県、国に働きかけ、もっと短縮して検査結果を出し、早めに結論を出す方向で進めていただきたい。万が一3ヶ月以内に自然的な被害があった際に米軍が、もう出てしまったとの形をとらないような対策が今一番必要だと考える。市の見解はいかがか。

○副市長 一番検査結果が早いのは県で、P F O S のみの検査で2週間とのことである。防衛局では44項目の調査項目を全部調査するため2～3か月かかるという話である。米軍も米本国へ送り調査するためそれなりの時間がかかるとのことである。ただ、台風シーズンを控え、今おっしゃる懸念があるが、P E T S システムは今普天間飛行場内にあるので、そういう状況になれば、恐らくP E T S システムでどんどん浄化をし、現場説明の際の風船のようなタンクにためてくれるのだらうと期待を持っている。結論が出るまでは下水道には流さないということをオーウェンズ大佐が話していたのでそこは守っていただけのだらうと考えている。

○山城康弘 委員 それも限界があると考えてるので早めに結果を出した方がよい。米軍の結果を待つ必要はないと考える。動かせるのは日本国内、国、県である。どういう方向に行くか早めに結論を出してほしいと、国へ働きかけてほしい。市の方針としては、今決まっていることに対し待つという態度なのか伺いたい。

○副市長 機会があるごとに調査結果を早めにしていただきたいという話はしていきたい。ただ物理的に調査分析に時間がかかることとであり、その結果が出るまでは待たなければいけないのではないかと考えている。

○山城康弘 委員 そうであれば、万が一漏出した際のことを考えなければいけないと

強く言っていただきたい。自然というのは予測できないので恐ろしく雨が降るような台風が来る可能性はゼロではない。備えておかなければいけない。市の前向きな動きを希望する。

○副市長 市長にも伝え、機会あるごとに話して行きたい。

○桃原功 委員 米軍の処理費用の件について、昨年 2022 年の秋に米国防総省は米国内の米軍基地の P F A S 処理のため相当な予算を組んだと記憶している。米国外であるが普天間基地、嘉手納基地の P F A S 処理費用もその予算に含まれる場合、米軍は費用負担の懸念はしないと思うが、その予算が該当するか把握しているか。

○副市長 承知してない。

○桃原功 委員 先ほど副市長が県と市が連名で立入調査を求めているとのことであったが、今回の処理方法について、絶対に川に放出せず、適正な処理を求める趣旨で、連名でも単独でも、文書で米軍及び防衛省に対して要請は済んだのか。

○副市長 先ほどから申し上げているように、このサンプリングの調査結果が出た後にきちんと話をしましょうと。それまでには絶対に流さないという話である。しかも河川ではなく下水道に流すという話をされていた。

○桃原功 委員 調査結果が出た後というのは、県は 2 週間後、国と米軍は 3 か月後であるが、それまで市民は待つということになるのか。

○副市長 そうならざるを得ないと思う。その間は放出しないという約束はできているのでそれは守っていただけるものと思っている。

○桃原功 委員 その結果が出る前に放出をするなどという意思表示は文書等でちゃんと担保として強く押さえておくべきではないかと思うのでぜひ検討していただきたい。

○副市長 検討はしてみます。

○知念秀明 委員 貯水槽に 7 万 6,000～17 万リッターを貯める容量があるとのことだが、それを焼却処分する予算はどのくらいかかるか確かめた方がよいと考える。

○副市長 検討して防衛局とも相談してみたい。ただ残量が分からないので、正確な予算は分からないと思うが、容量満杯の場合、これを処理するのにどれくらいかかるかということは算出可能だと思うのでそれは沖縄防衛局とも相談してみたい。

○上地安之 議長 6 か所の貯水槽について、雨水が入っていくという話だが、その貯水槽は、一つのタンクではないのか。蓋がないのか。水が入ってくるとはどのようなことか。

○副市長 現場を見てきたが、鉄格子のかぶさった水路がかまぼこ型の施設の中に通っており、恐らく雨水が入ってくるというのは、駐機施設の中に入ってきた水がその排水路を通過してタンクに落ちていくのではないかと理解している。タンク自体は密閉さ

れたコンクリート製のものとのことである。

○**上地安之 議長** 密閉されたタンクに水が入るといのはどういうことか。

○**副市長** 屋内であるはずの駐機施設の中に、大量の雨が降った際に多分雨水が流入するのだと思われる。床に幾通りか排水路があり、それがタンクに繋がっている。そういったオーバーフローした水が排水路を通過してタンクに落ちていくと説明していると解釈した。

○**上地安之 議長** 当然雨水が入ってくる可能性があるということによいのか。

○**副市長** はい。

○**上地安之 議長** もう一点、排水処理システムが今回初めて披露されたと思うが、これはアメリカ本国ではそのような処理で、そのまま下水道に流しているのか。

○**副市長** 最終処理については お答えいただけなかった。

○**上地安之 議長** 排水処理システムの機材は前々からそこに準備をされていたものなのか。それとも、何らかの事情でアメリカ本国から導入し、今回それで浄化し下水道に流そうという考え方を持ったのか

○**副市長** これも推測であるが本国から持ち込んだという話をされていたので、今回おそらく処理水が溜まっていて、それを浄化して下水道に流したいという意向があって本国からその装置を持ってきたのだと思われる。

○**伊波一男 委員長** 他になれば質疑を終わりたい。副市長ありがとうございました。

(説明員退室)

○**伊波一男 委員長** 今後の進め方について意見を伺いたい。

○**桃原功 委員** 今日の副市長の説明で詳細がイメージできた。国と米軍の調査結果は2～3か月後であり、それを待って市の対応を、ということであったが個人的な要望としてそれは待たず「川に放出しないで」という意思表示はしたほうがよいと提言をした。3か月経つと、意識など薄れると思うため、山城委員も発言していたが、処理をしない前に、台風による漏出の懸念等も考えると、議会として絶対に川に放出するなという趣旨の意見書又は要望書を検討した方がよい。

○**伊波一男 委員長** 各会派より意見を伺いたい。

○**米須清正 委員** 川に流すなという意見書を出した方がよい。

○**知念秀明 委員** 川ではなく下水道だと思うが、下水道に流さないようにという意見書は出した方がよい。

○**岸本一徳 委員** 私も同じである。

○**知名康司 委員** 一旦持ち帰り検討させていただきたい。

○**桃原朗 委員** 会派持ち帰りで確認させていただきたい。

○伊波一男 委員長 本日の副市長の説明を会派へ共有の上、意見をまとめていただきたい。また、桃原功委員より要望若しくは意見書に近いものを出したいということであったので、同時並行で文案作成を進めてもよろしいか。

(「異議なし」という者あり)

○伊波一男 委員長 次回は7月26日月曜日の午前10時30分開催としてよいか。

(「異議なし」という者あり)

○伊波一男 委員長 他になければ終わりたいがよろしいか。

(「異議なし」という者あり)

【協議結果】

普天間飛行場内におけるPFOSを含む汚水の処理について、今後の進め方を持ち帰り検討し引き続き協議する。

○伊波一男 委員長 本日の委員会を閉会いたします。 閉会時刻 (午後3時56分)